



植物工場のスタンダードをリードする

スプレッドは植物工場に特化した世界初の認証規格「JAS 0012」を取得 植物工場野菜の安全性周知と産業発展に貢献

2021年3月25日

株式会社スプレッド（本社：京都市下京区、代表取締役社長：稲田 信二、以下「スプレッド」）は、世界に先駆けて黒字化を達成した植物工場「亀岡プラント」（京都府亀岡市）と世界初の大規模自動化植物工場「テクノファームけいはんな」（京都府木津川市）において、農林水産省による人工光型植物工場（以下「植物工場」）での葉菜類の栽培環境管理を認証する規格「JAS 0012」を取得しました。植物工場に特化した世界初の規格の認証取得を通して、植物工場野菜の安全性の周知と、業界基準の普及に努めます。さらにスプレッドは、安心・安全な野菜の安定的な供給責任を果たし、多くの人びとの健康的な食生活に寄与することでSDGs達成に貢献していきます。

植物工場の産業発展のために

昨今、消費者の安全性志向（※1）の増加などによって、衛生管理された環境で農薬を使わずに野菜を生産できる植物工場への期待が高まっています。一方で、長らく植物工場の栽培・衛生管理能力を適切に評価する規格や基準が国内外で存在しませんでした。2019年に農林水産省が「JAS 0012」を制定。設備仕様や衛生・栽培管理体制などに対して達成すべき項目を定めました。現在、日本国内では約200カ所の植物工場がある中で、「JAS 0012」の水準をクリアできるのは1～2割程度と言われています（※2）。

スプレッドは、2007年に亀岡プラントを稼働してから独自の品質・衛生管理体制を構築してきました。これまで植物工場野菜ブランド『ベジタス』をはじめとした商品を約7,000万食販売してきましたが、「GLOBALG.A.P.」や「JAS 0012」などの認証取得を通じて、コロナ禍を経てより一層需要が高まる植物工場業界全体の品質向上や標準化を促進し、産業発展に貢献します。

認証を通して評価された価値

- ・ 農林水産省が定めた規格水準をクリアする安全性
- ・ 長期に渡って安定的に高品質な野菜を生産・供給できる体制
- ・ 食品加工や外食・中食事業者からのニーズに柔軟に対応できる管理能力

「安心・安全」のための取り組み



空中浮遊菌検査

養液だけでなく栽培室の空気中の微生物数を検査しモニタリング



異物混入対策

作業時は衛生服を着用し、出荷前には全商品を人の目で2度検品

消費者への周知

今回の認証取得により使用可能となった特色 JAS マークを、店頭や WEB サイト、チラシなどに掲載し、生産工程の安全性の高さを訴求していきます。



店頭での展開イメージ

スプレッドはアグリテック分野の技術革新とステークホルダーとの連携を通じて、世界が抱える気候変動や食料安全保障の課題に対してソリューションを提供し、持続可能な社会の実現とSDGsの達成に貢献していきます。

JAS／「JAS 0012」について

JAS（Japanese Agricultural Standards）とは、農林水産省が定める食品や農林水産物の規格。一般 JAS、有機 JAS に加え、高付加価値やこだわりのある規格の特色 JAS がある。「JAS 0012」は、特色 JAS に分類され、人工光を利用し閉鎖された空間で生育環境を制御し、葉菜類を生産する植物工場に対して、栽培・衛生管理能力を適切に評価するために 2019 年に制定された。日本の植物工場の管理能力の標準化を進め、国際競争力向上を目指している。



特色 JAS マーク

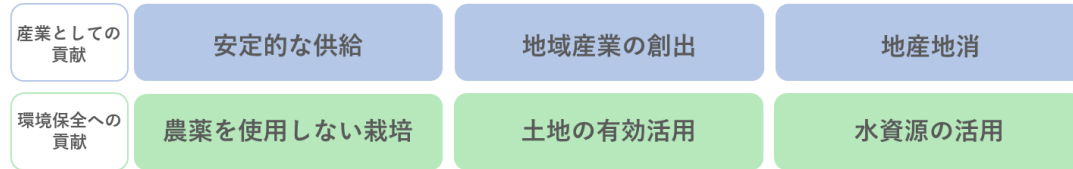
※1 浦出 俊和, 竹歳 一紀, 山口 道利, 岩村 幸治, 杉村 延広, 平原 嘉幸, 木下 泰宏.「植物工場野菜に対する一般消費者の認識と評価」.『農業経営研究』. 2018 年. 56 巻 2 号. p. 81-86

※2「農水省、植物工場に規格新設 高品質の栽培後押し」.『日本経済新聞 電子版』. 2019 年 8 月 4 日

【APPENDIX】

◆ 植物工場の社会的役割

気候に左右されることなく、どこでも誰でも安定的に生産ができ、かつ環境への負担が少ない持続可能でレジリエントな農業として期待されています。



◆ 日産 2 万 1 千株 世界に先駆けて黒字化を達成 亀岡プラント

2007 年より稼働。6 年の試行錯誤を経て、栽培に最適な環境制御技術の確立や、効率的なオペレーション構築によって、97%を超える高稼働率を実現し、大規模植物工場では困難と言われた黒字化を達成。熟練したスタッフによる大規模栽培技術の実験・検証の場としての機能も持ち、スプレッドの精度の高い生産を支えています。



◆ 日産 3 万株 革新技術で栽培安定化を実現 テクノファームけいはんな

2018 年より稼働。次世代型農業生産システム『Techno Farm™』を導入した初の工場。併設の研究開発施設での栽培技術や、IoT・AI 技術も開発。マザー工場として新規技術の実証と開発を行い、未来に向けてさらなる進化を続けています。2020 年には稼働率 99%に到達。

【生産性向上と環境負荷軽減を両立した革新技術】

- ・栽培工程の約 7 割を自動化
- ・水のリサイクル技術で 1 日約 16,000 リットルを節水
- ・高度な環境制御技術
- ・植物工場専用 LED 照明による省電力化
- ・IoT を活用した栽培管理システムによる業務効率化



◆ 次世代型農業生産システム Techno Farm™

スプレッドが亀岡プラントで培った 10 余年のノウハウを基に、各分野のパートナーと共同で開発しました。自動化栽培、水のリサイクル技術、環境制御技術、植物工場専用 LED 照明、IoT・AI 技術などを導入。未来の食料生産に必要不可欠な技術として持続可能な農業を推進していきます。

URL : www.technofarm.com



◆ 累計 7,000 万食超を販売^(※1) 植物工場野菜ブランド ベジタス

「サステナブルなベジタブル」をコンセプトに、食べるだけで地球や人が健やかになる野菜を目指しています。ラインアップはフリルレタス、プリーツレタス、フリンジレタスの3種類。それぞれシャキシャキ、ふんわり、ふわシャキといった個性あふれる食感と、甘味と旨味が広がる味わいです。お子様も喜んで食べていただける緑黄色野菜^(※2)として支持されています。サラダはもちろん、サンドイッチ、さらにスープなどの加熱料理でも引き立つおいしさです。 URL：www.vege-tus.com

ベジタス



◆ SDGs への貢献



スプレッドは、2030 年の SDGs の達成に向けて、以下のように取り組んでいます。

- ・ 目標 2 飢餓をゼロに：持続可能な食料生産の推進
- ・ 目標 3 すべての人に健康と福祉を：徹底した衛生管理による食中毒リスクの軽減
- ・ 目標 8 働きがいも経済成長も：自動化、DX 化の推進による労働負荷の軽減
- ・ 目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう：IT を活用した効率的な栽培管理
- ・ 目標 12 つくる責任つかう責任：生産物の捨てる部分が少ないことによるフードロスの抑制
- ・ 目標 13 気候変動に具体的な対策を：レジリエントな農業の推進
- ・ 目標 15 緑の豊かさを守ろう：土地の有効活用、栽培期間中農薬不使用
- ・ 目標 17 パートナリシップで目標を達成しよう：『Techno FarmTM』のパートナーシップ展開

※1 スプレッドで生産し販売したレタスの実績

※2 ベジタスは緑黄色野菜の基準（β-カロテンの含量 600 μg/100g 以上）をクリア

【本リリースに関する問い合わせ】

アースサイドグループ 広報部

E-mail：info@earthside.com

TEL：050-3852-0561（直通） 075-316-6020（代表）

URL：www.spread.co.jp